

Expression of TrkB and BDNF is associated with poor prognosis in non-small cell lung cancer

岡村, 恭子

<https://doi.org/10.15017/1500549>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏 名：岡村 恭子

論 文 名：Expression of TrkB and BDNF is associated with poor prognosis in non-small cell lung cancer

(TrkB と BDNF の発現は非小細胞肺癌における予後不良と関連している)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

Tropomyosin-related kinase B (TrkB)と Brain derived neurotrophic factor (BDNF)が高発現している腫瘍細胞は悪性度が高く、様々な癌腫において予後不良である。本研究において、我々は非小細胞肺癌における TrkB と BDNF の発現と、臨床病理学的因子及び予後との関係について明らかにすることを目的とした。102 例の非小細胞肺癌の検体における、TrkB と BDNF の発現を免疫組織化学染色により評価した。様々な臨床病理学的因子と TrkB、BDNF の発現との関係についての検討では、血管浸潤が唯一、TrkB の発現($p = 0.010$)と BDNF の発現($p = 0.015$)と有意な関連を認めた。予後との関連についての検討では、TrkB 陽性腫瘍は TrkB 陰性腫瘍と比べて、有意に無増悪生存期間が短く($p = 0.0094$)、全生存期間も短かった ($p = 0.0019$)。多変量解析において、TrkB 発現は無増悪生存期間 (HR 3.735、95 %C.I. 1.560-11.068、 $p = 0.002$) と全生存期間 (HR 4.335、95 %C.I. 1.534-15.963、 $p = 0.004$) において独立した予後不良因子であった。TrkB と BDNF の共発現例では、それらのうちどちらか一方の発現例と比べて、有意に予後不良であった。我々の研究は、TrkB と BDNF の発現は非小細胞肺癌における予後不良因子であることを示唆した。